



氏名	本多 典子/ HONDA noriko	職名	教授	学位	文学修士
所属	一般科 / 荒川キャンパス	E-mail	Honda(at)metro-cit.ac.jp		
シーズ キーワード	中近世日本文学、伝承文芸、物語、説話、昔話・伝説				

相談可能なテーマ	講座・講演会のテーマ例
<ul style="list-style-type: none"> <li>文章表現法</li> <li>古典文学講読</li> <li>地域伝承</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小論文の書き方（中学生向け）</li> <li>御伽草子講読（一般向け）</li> <li>地域の伝説・昔話（一般向け）</li> </ul>

研究・教育内容の紹介

<物語はどのようにしてできあがり伝わるのか>

一般に「御伽草子」と呼ばれている中世に数多く作られた物語は、文字だけで書かれた本ではなく、絵巻や絵本の形で絵と文字によって描かれています。有名な「浦島太郎」や「一寸法師」をはじめ、その数は数百に及びます。それらの物語たちは、能や浄瑠璃などの芸能や昔話などにとりこまれて人々の間に広がり、江戸時代から現代に至るまで、子ども向けの絵本になったり小学校の教科書に載ったりアニメになったりなど様々な形で伝わり人々に親しまれています。御伽草子の物語は、「作者」というべき個人の才能によってではなく、名のない大衆の想像力によって生み出され支えられた様々な「話の要素」の巧みな組み合わせによって成り立っています。例えば神話や伝説などの言い伝えも「話の要素」になります。どのような「話の要素」からどのような物語世界ができあがっているのかを検討し、「人々」が物語を求める気持ちのあり様を明らかにしようとしています。これは古来日本人がどのような感性や考えをもち、どのような文化を育んできたのか、そして現代にどのようにいきづいているのかを知ることにつながるのです。

<見えない世界をどのように描くか>

古来日本人は、目には見えないが「そこ」にある世界をどのように認識してきたのか、その認識が現代の私たちの意識下にどのように息づいているのか、古代から現代に至るまでの物語・演劇・絵・映像作品等様々な表現の読解を通して考えていく授業を展開しています。工学を学ぶ学生たちの広い視野と日本文化への理解を涵養することになると考えています。

利用可能な機器/施設	所属学会/協会
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本文学協会</li> <li>中世文学会</li> <li>説話・伝承学会</li> <li>藝能史研究会</li> <li>東京都立大学国語国文学会</li> </ul>

その他参考事項

正体のよくわからないコロナウィルスが襲ってきたとき、日本の人々はアマビエに救済を求めました。いろいろな姿のアマビエが次々に生まれました。近代科学がこれほど発展した現代でこのような現象が席卷したのには、それなりのワケがあるのです。